

町長の施政方針は町広報3月23日号をご覧ください

町長の施政方針に対する代表質問

3月10日

※代表質問は、委員会を代表する議員が行政の重要課題について執行部に質問する場です。

文教委員会 総務常任委員会



代表質問者
田村 計 久



Q 湯沢町の財政が非常に厳しい状況にあり町有施設の検証など議論が始まったが、今後の財政の取り組みと、それにより町民負担を求めることはないか。

A 持続可能な行政運営を目的に、財政調整基金や湯沢心のふるさと基金の残高に目標額を定めるなど取り組んだが、現在の収支に不均衡な懸念状況にある厳しい財政状況が浮き彫りになった。現在のレベル3を何らかの手を打ってレベル4まで回復させたい。各施設の使用料など適正な受益者負担について検討し、収支のバランスを整えていく必要がある。

Q 湯沢学園保小中一貫教育10年を迎え、町長の総括と今後の課題は。

A 順調に成果を上げたが、コロナ禍等で大きな影響を受けたことは課題である。総合教育会議において目標設定を行い、教育施策の充実を図っていく。

Q 子供家庭センターの設置、具体的な役割は何か。

A 子供家庭センター設置で業務は集約でき、家庭の出産前から子育て期の相談事や入院時、検診や予防接種の申し込みや相談なども同じ窓口でできて利便性が向上する。

Q 地域の安全安心のためにも減少する消防団員の確保は急務、若者が増えているとは言え入団者は少ない、その対策を伺う。

A 消防団活動に理解をいただくとともに処遇改善、組織の再編成を進め魅力ある消防団をめざす。

Q 各町内会にある防災組織の活動がみえない、総合防災訓練だけでは町民の防災意識は高まらない、行政によるさらなる指導が必要ではないか。

A 町内会長会議で防災体制の再確

認と自主防災組織補助金を活用した活動の活性化をお願いした。

Q 設置の進むサイレン吹鳴スピーカーを利用した町民向け広報をしないのか、また防災ラジオの配布状況は。

A 災害などの発信、放送ができるようになっているので、今後どのように使用するか検討する。防災ラジオ1,720台配布(残1,280台)。

Q 地元スキー選手が減少している。選手を増やし、育てる手立ては考えているか。

A 湯沢町のジュニアスキーに対する支援体制は高いレベルにある。スキー選手減少は、近年のスノーボードはじめ雪上スポーツ種目が増え、分散している傾向があることも要因である。

Q 童画の街づくりとあるが拠点もないし、パンフレットにもない、案内サインがあるわけでもない。街づくりといえるのか。

A 作品は約1,000点、観光施設、銀行、宿泊施設などに展示、新潟ふるさと村など町作品展を行っている。新たな活用方法も提案を受けているので拠点づくりは引き続き検討していく。

Q 町観光関連施設、社会体育施設など財政運営指針により公共施設の見直しを行って、町長の言う四季観

光の確立ができるのか。さらに湯沢高原ロープウエーなど譲渡、廃止の判断はいつごろか。

A 10年の幅をもたせ財政状況を見ながら判断するが、観光に関連する施設については運営の改善をし、四季観光の確立をはかる。令和16年をめどに施設の譲渡、または廃止し、財政状況を回復させることになる。

Q 行政業務改革が大きな目的だがデジタル人材の確保、職員の知識向上、マイナンバーカードの普及、高齢化率の高い湯沢町民の認識と理解をどのように進めるのか。

A 新たな時代に対応した町役場、推進アドバイザーのもと窓口改革、業務改革、働き方改革について検討を深めている。国の制度を活用し、ヘルプデスクの設置を継続、遅れを生じないよう体制整備し、町民対応もしっかり進めていく。

Q 昭和42年建設の湯沢町役場、調査結果に基づき大規模修繕、もしくは建て替えとあるが老朽化し、町民の使い勝手が悪い現庁舎は人口減少、DX化に伴い新たに建設することが望ましいと考えるがいかがか。

A 大規模修繕、建て替えの時期、建て替えの場合の新庁舎の機能、規模、資金計画など長期的ビジョンでの検証を始める。